

人間の尊厳を守り、いじめを無くすために

～小山田圭吾氏の30年近い前のインタビュー記事について～

一般社団法人日本自閉症協会 会長 市川宏伸

小山田圭吾氏がオリパラ音楽担当を辞任した件に関し、当協会の見解を求める声がありましたが、当協会はネットで引用されている情報だけで判断するべきではないと考え、問題となった30年ほど前の二つの特集記事（注）に目を通したうえで考察することにしました。

詳論は省きますが、当該の特集記事は、時計の針を当時に戻しても出版されてはならなかったものであると考えます。知的障害生徒だけでなく、自閉スペクトラム症と思われる生徒も文中にあります。小山田氏とライターがいじめ談義をしたものと考えます。

多くのいじめや差別の被害者がこれらの記事を目にすれば、過去を思いだし、体調を悪くします。

書かれているような酷いいじめや差別が小山田氏の学校で実際にあったのかどうか、誇張されたものなのかどうかに関わらず、この特集記事はいじめや差別の被害者の視点を欠いており、出版意図に関わらず、いじめや差別を助長します。

しかし、同時に、この過去の特集記事を根拠に現在の小山田氏個人を叩くことを煽るネット上のブログや書きこみは、人と人との対立を助長するものであり、それはいじめや差別と同類と考えます。そういう事態に反応しやすい自閉スペクトラム症当事者を不安にさせます。

それらを踏まえ、私たちは次のことをお願いします。

1. いじめや差別を記事にする場合には、被害者の視点を欠かないようにしてください。
2. 引用の場合であっても、生々しい表現は被害者のつらい記憶を増幅しかねません。被害者への配慮をしてください。ネット上の書き込みは当事者の目に

触れやすいために特に注意してください。

3. お笑いやコントで容姿や言動をふざける対象にすることは避けてください。
4. ネット上で有名人を叩く風潮が広がっていることを憂慮します。これは、人と人との関係を不安なものにし、結果的には差別やいじめを生じやすくします。マスメディアも、人間の尊厳を守り、いじめを無くす視点に立った適切な報道をしてください。

以上

(注) : 「ロッキング・オン・ジャパン」(94年1月号)の『小山田圭吾 2万字インタビュー』／「クイック・ジャパン」(95年8月号、太田出版)の『いじめ紀行』